

同窓会

うしお会の活動

70周年記念誌に同窓会の活動を掲載するに当たり、卒業生として母校の歴史を誇りに思うと共に、心からお喜び申し上げます。

現在同窓会は、吉川晴彦会長を先頭に2年に一度の総会、毎年発行されている同窓誌「うしお」、その他在校生の諸活動の支援に会員一丸となって活動しています。思えば50周年に際しての名簿発行が大きな節目で、その際の名簿発行委員長滝沢茂男氏、副委員長広瀬直彦氏を中心とした同窓会再建にける全会員の意欲が今日の活動の基盤となっております。「うしお」はすでに17号に及び、総会ももう少し参加者がほしい所ですが、例年和やかに開催され、責任者として喜びにたえません。また70周年を記念して、記念事業に積み立てた基金を実行委員会に寄付しました。在校生諸君へよりよい環境で一層勉学や課外活動に励んでいただけるよう、歴史をひもとく教員支園脇の故郷所校長の顕彰碑を中心とした庭園整備を一つの事業としました。これらは、在校生諸君が卒業し同窓会の一員として、共に手を取り合って、友情を深めると同時に、社会発展に資する願いから行なっています。学校共々同窓会もより一層の発展を期しております。

副会長
澤井 寛



祝う創立七十周年 母校は私の誇り



同窓会長
吉川 晴彦

我が母校「神奈川県立鎌倉高校」が創立70周年を迎えました。同窓「潮会」が、記念事業、記念祝賀会開催に協力出来ますことに、喜びと誇りを感じつつ、お祝い申し上げます。

私の卒業は、昭和32年（第8回生）でありました。人の参みで申すならば、母校はヨチヨチ歩きの赤ん坊時代でありました。手つかずの自然の中に校舎は建って居り、学校の諸設備も、プール、テニスコートが整ったばかり、校歌も制定されたのもこの時代でありました。海と山、澄んだ空気の中、良き師、良き友との出会いを心に深く刻み込み、母校の誇りは今でも熱く持ち続けています。

母校70年、古稀を迎え、私は運暦のこちら側に入ってきた。青春時代の思いに任せた愚行が忍ばれる。「ハア一日坂の丘に立ちや・・・右にや白雪 富士の嶺 左にや たなびく 大島浮ぶ ヨイヨイ」、眼下に江の島を望む、風光明媚の母校の庭に立つ。若き情熱の盛んであった遠い昔の自分を思う。

私が有坂前同窓会長の後を受けたのが、昭和56年2月でありました。その数年前より、同窓会の復活と合せて定期総会の開催、会報「うしお」の発行等の声が高らかにあがり、現PTA会長滝沢茂男氏、当時の学内同窓教職員広瀬直彦先生、学内幹事の諸先生の御苦勞があったればこそ、本日の「うしお」会の発展の基礎が築き上げられました。

もちろん、歴代校長先生はじめ多くの関係各位の御協力の賜物と感謝申し上げます。このような、具体的な波が広がり、名簿作成がなされたのであります。

同窓会復活にも悩みもありました。私学の同窓会組織は大きな存在価値があり、学校の充実は無縁のこと、PTA、同窓会は表裏一体の緊密な関係を保ち運営されるが、はたして母校との関係を如何なるを良しとするのか思い悩んだものでした。輝かしい今を迎えて感無量。潤んだ風船に青春の息吹を吹き込んで、二度と来ぬ「今」を精一杯生きることが私の70才に向けての熱き思いであります。「潮」よ永遠なれ！